

初等中等教育における国際教育推進検討会報告（案）

ポイント

国際教育

国際化した社会で、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要な態度・能力の基礎を育成するための教育
他者を受容し「つながる」力 自らの国の歴史・文化に根ざした自己の確立 自ら発信し行動する力

基本的視点

現状と課題

国際教育を充実するための方策

国際教育の
総合的な推進

国際教育の実践力の向上と「学びの広がり・深まり」をもたらす授業づくり

国際教育資源活用のため、共有・連携の促進と支援体制の構築

「海外の先駆的な取組を日本の学校教育に生かす」という視点

- (1) 授業の実践
 - ・一部の教員任せ
 - ・単なる体験や交流に終始
- (2) 教員の指導力
 - ・実践的な研修の不足
 - ・中核的教員の不足
- (3) 海外派遣教員の活用
 - ・派遣教員の活用不足
 - ・活用方針の不足
- (4) 外部資源の活用
 - ・情報の不足
 - ・コーディネーターの不在
- (5) 学校の多国籍化・多文化化
 - ・外国人児童生徒の増加
 - ・日本語指導充実の必要
 - ・不就学や母語保持等の課題
- (6) 海外子女教育
 - ・成果の検証の必要
 - ・状況の変化への対応

1. 学校教育活動の充実

- (1) 学びが広がり深まる授業づくり
 - 優れた取組の普及
 - 学習内容・方法等の開発
 - ITの活用
 - 言語教育の充実
- (2) 教員の実践力の向上
 - 参加型・実践型の研修の実施
- (3) 直接的な異文化体験の重視
 - 高校生留学・学校間交流の促進
- (4) 外国人児童生徒教育の充実
 - 日本語指導の充実・不就学への対応
 - 共に進める国際教育の推進

2. 国際教育資源の活用と連携のための支援体制の構築

- (1) 海外経験を有する教員の活用
 - 人事配置等組織的な活用の促進
 - 派遣教員の情報発信の支援
- (2) 地域における協働の促進
 - 地域国際教育ネットワークの形成
 - 優れた連携事例の普及

3. 海外子女教育の変化と成果の活用

- (1) 海外の成果を日本の学校教育に生かす
 - 海外子女教育の成果の発信
- (2) 海外子女教育・帰国児童生徒教育の充実
 - 実態・ニーズを踏まえた充実方策
 - 特性に配慮した帰国児童生徒教育

(1) 国際教育拠点の形成

- 地域の実情や特色を生かし、先進的な取組を実施
- 大学等と連携し、カリキュラム・教材開発などの実践
- 地域の他の学校を先導
- 取組例
 - 海外派遣教員の集中配置
 - 海外姉妹校との交換留学
 - ITの活用
 - リーダー的資質の育成

(2) 国際教育資源の共有化と連携の強化

- 指導力向上ワークショップの実施
- 国際教育データベースの開発
- 地域の人材・組織の連携支援
 - 関係者の情報交換
 - コーディネーターの配置
 - NPO等の活動への支援
 - 外部人材・組織の発掘